

森づくりサポーターニュース

平成23年(2011)4月1日発行

びわこ地球市民の森(森づくりセンター)

〒524-0101 守山市今浜町3089 TEL 077-585-6333 FAX 077-585-6312
メールアドレス moridukuri@ex.biwa.ne.jp URL <http://www.ex.biwa.ne.jp/~moridukuri/>

春のサポーター活動

21世紀の最初の年(平成13年)に旧野洲川南流の廃川敷地で始められた「びわこ地球市民の森づくり」も今年で11年目を迎えることになりました。この「森づくり」は都市公園として整備を進めつつも、一方では、「自然の力」に支えられ、一方では「緑」の生長を暖かく見守ってくださっている方々の協力により、「森づくり」を試みているものです。

「森づくりサポーター」の皆さんには、1本1本の樹木の生長していく姿が次第に森の変遷と重なって映ってきているのではないかと思います。この森づくりはまだ道半ばですが、もう10年もすれば、この森が「自然を視る」、「自然に聴く」そして「自然と語る」場となって、次世代へのすばらしい贈り物になっていくことでしょう。

さて、平成22年度最後のサポーター活動が3月5日(土)に行なわれました。

サポーターが55名、団体として登録している滋賀県ガールスカウト33名の参加を得て開催されました。

サポーターは、「ふれあいゾーン」で2006年にガールスカウトが苗木を植えた地区の手入れを行いました。植樹後、一度も手入れがされていなかったため、枝と枝、そして枯れた雑草が絡まって雑然とした見苦しい状態でしたが、間伐と剪定、雑草の除去作業で見違えるようなすっきりした林になりました。

また、ガールスカウトの児童は、中村實先生から「春を待つ植物たち」と題した講演を聞きました。そのあと、クヌギなどのホダ木にシイタケ菌(種駒たねごま)を打つ作業をしました。

これらの作業のあと、春を待つ活動の恒例となっている「森なべ」で昼食を楽しみました。

サポーターの皆さま、迎えた平成23年度も「森づくり」へのご協力、どうかよろしくお願いします。



雑草も刈られ風通しのよくなった森の情景(「ふれあいのゾーン」)

ビオトープシリーズ その3

琵琶湖におけるビオトープの保全について

～「水辺エコトーンマスタープラン」～

前回述べました「マザーレイク21計画－琵琶湖総合保全整備計画」を推進するにあたって、生物の多様性に富み、多くの生物が生息、生育、繁殖する場として、また琵琶湖固有の景観の構成要素としてきわめて重要な区域である**水域と陸域との推移帯（＊エコトーン）**を保全、再生するための指針などを示したものが、平成16年3月に策定された「水辺エコトーンマスタープラン」です。

＊エコトーンとは、ここでは琵琶湖と岸辺の移行帯のことです。

特に、水辺の自然地の減少や在来のニゴロブナなどの減少など琵琶湖をとりまく生態系の状況が厳しいものになってきたと気付かれて、**湖辺域ビオトープ**の保全・再生に向けて策定されたものです。

当プランの対象地域は、湖辺域（＝水深7mの琵琶湖と記録に残る過去最大の洪水時に湛水したラインに囲まれた範囲）とされており、**びわこ地球市民の森**も含まれています。

計画期間は、上位計画である「マザーレイク21計画」と整合が図られて2050年頃のあるべき姿を念頭に2020年度までとされています。

生態系は非常に複雑な構造であり、また自然の営みのなかで常に変化していると考えられています。このため、運営・管理については、長い期間を見据えた視点や最新の科学的な知見に基づいてその時々で多様な主体の参画と協働のもとに最善の施策を考えていくことが重要とされています。この考え方は、**順応的管理**とされています。

湖辺域ビオトープ保全と再生のため、都市公園事業による動植物に配慮したビオトープ空間の創造や湖岸保全整備事業などによる自然湖岸の保全のほか、各種の調査研究、湖辺域ビオトープ保全・再生モデル事業と順応的管理の実施、湖辺域学校ビオトープモデル事業を推進するとされています。



守山市木浜の水辺



「ふれあいゾーン」の水路



「里の森ゾーン」でのギンヤンマの産卵



今回は、「さくら」のお話です。

【桜】

バラ科のサクラ属の落葉高木の総称です。

日本の国花であり、日本の代表的な花木として親しまれています。自然種としてはヤマザクラ、オオシマザクラ、エドヒガン、カスミザクラ、マメザクラ（フジザクラ）、ミヤマザクラ等10種ほどが認められています。

平安時代からは「花」といえば桜をいうようになり、かざしぐさ、あだなぐさ、たむけぐさなどとも呼ばれ、古くから愛され、文学、詩歌、絵画の題材となってきました。花卉の数や色、花のつきかたなどを改良しようと多くの（一説に800種）園芸品種が作られています。これらのうち、ヤマザクラの園芸品種を総称してサトザクラ、八重咲きの品種を総称してヤエザクラ等ともいいます。

江戸時代末期から明治初期にかけて染井村（現在の東京都豊島区駒込）の植木職人がヤマザクラとエドヒガンを交配し、開発したとされた「吉野桜（ヤマザクラの意）」を「ソメイヨシノ（染井吉野）」と称して売り出したところ、全国各地に広まり、サクラの代名詞となりました。当時は交配の方法が企業秘密であったようですが、近年の遺伝子解析の進歩の結果、ソメイヨシノは葉に先だって花が咲くエドヒガン系の園芸種コマツオトメと白色大輪の花が咲くオオシマザクラの交雑種が起源であることがわかっています。ですからソメイヨシノは、もともと人の手で接木（つぎき）等で増やした園芸種です。400年以上も長生きするヤマザクラなどに比べて70～80年ぐらいの寿命のうえ、病虫害（特に、テングス病）にもかかりやすいのですが、現在のところ、花見などでにぎわう百花繚乱の桜の名所ではそのソメイヨシノが中心になっています。

その「さくら」の名称の由来は、一説に「咲く」に複数を意味する「等（ら）」を加えたものとされ、元来は花の密生する植物全体を指したと言われていました。また他説として、春に里にやってくる稲（さ）の神が憑依（ひょうい）する座（くら）だからサクラであるとか、うららかに咲くから「咲麗（さくうら）」の略とか「咲羣（さくむら）」の略とか推論がいろいろありますが不明のようです。

また「古事記」や「日本書紀」による（神話）伝承では、富士山の頂から花の種をまいて花を咲かせたとされる、「コノハナノサクヤビメ（木花之開耶姫）」の「さくや」をとって「さくら」になった、とされています。

ところで漢字の「桜」ですが、元々の字は「櫻」です。「櫻」はお洒落をした女性の姿を表しています。今でこそ真珠やプラチナ、果てはダイヤモンドのネックレスもありますが、昔中国ではそんなものはなかったでしょう、美しい貝殻を集めて穴をあけ紐を通して二重にして首飾りにして、現代でいうネックレスのようにして飾ったようです。

その姿の女性を表した漢字が「嬰」（えい）です。その姿が美しいことから敷衍して、乳飲み子が母親の首にまわりついている光景もまた美しいということで「嬰兒」という熟語もありますね。また、音楽の世界ではシャープ「＃」を「嬰」記号と言って使います。そのきれいな貝の首飾りをして、めかし込んだ女性のような木を表す「櫻」という字になりました。そういえば「桜」の花言葉には「優れた美人」というのもありました。

「梅」（前号Vol.35号）といい、「桜」といい、「子孫繁栄」と「美しきもの」には「母」や「女性」がつかものなのに、「父」と「男性」がまるで出てこないのは古今東西の習いで、しかたがないことなのでしょう。

次回は、「娑羅双樹」と「菩提樹」のお話をします。

植栽苗木の生育状況について・・・①

びわこ地球市民の森では、植栽苗木の生育状況を定期的に調査し、今後の保育管理や密度管理などの基礎資料とし、適切な森づくりに役立たせたいと考えています。

平成22年10月～11月にかけて調査地（5m×5m）19箇所樹種、生立本数、樹高の調査を行いましたので、その結果を2回にわけてお知らせします。

□全体の生育状況

今回の調査対象は、つどいのゾーンで3箇所、ふれあいゾーンで9箇所、出会いのゾーンで3箇所、里の森ゾーンで4箇所の合計19箇所でした。

各ゾーンに共通して植栽されている主な樹木としてクヌギ、エノキ、ムクノキを選択してその生育状況をご紹介します。（里の森ゾーンは、初めての詳細調査のため、比較ができないのでここでは省略します。）

○つどいー C地区（2006年春植栽地）

落葉広葉樹（cm）				
調査年度	クヌギ	エノキ	ムクノキ	平均
平成20年度	61	127	170	119
平成22年度	218	214	320	251
樹高生長	157	87	150	132

○ふれあいー E、D、G地区（2005年春～2006年春植栽地）

落葉広葉樹（cm）				
調査年度	クヌギ	エノキ	ムクノキ	平均
平成20年度	126	176	208	170
平成22年度	340	328	393	354
樹高生長	214	152	185	184

○出会いー A地区（2006年秋植栽地）

落葉広葉樹（cm）				
調査年度	クヌギ	エノキ	ムクノキ	平均
平成20年度	61	75	—	68
平成22年度	166	115	—	141
樹高生長	105	40	—	73

各ゾーンに植栽された落葉樹3種類の樹高を調査年度で比較しますと上記のとおりでした。前回調査は、平成20年5月に行われていました。樹高で比較した結果、一番樹高生長が良かったのは、ふれあいゾーンで、次いでつどいゾーン、出会いゾーンとなっていました。

この順番は、植栽時期が早い順でした。3種類とも年齢の高いものから樹高生長が良いことが明確となり、このことから森全体が歴史を経過して一定順調に生育してきていると思われます。



今回調査の中で一番生長が良かったふれあいゾーン地区

お知らせ

平成23年度（2011年）森づくりサポーター活動の計画

森づくりサポーターの平成22年度末の登録は、個人では221名、団体では5団体となっています。平成23年度の活動予定は次のとおりです。皆さまのご参加をお待ちしています。

1回目

4月16日（土）：「びわこ地球市民の森のつどい2011」への参加と一般参加者への植樹指導

2回目

7月23日（土）：除草、枝落としもしくは間伐

3回目

10月中旬：除草、枝落としもしくは間伐

4回目

3月上旬：枝落としもしくは間伐